

令和4年度長野県長野吉田高等学校学校評価表

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
生徒指導	生徒の自立心と社会規範意識を高めさせる生活指導を行う。	身なりや挨拶、登下校時のマナーを含め公共の場における適切な態度を身につけさせることができたか。	集団生活の中で、他者を思いやり、自ら考えて行動する態度を育てることができたか。	生活けじめ週間を4回実施。自転車通行マナーについては、ホームルームにて再三にわたり注意喚起を実施。中央署員に来校いただき1学年向けに交通安全講話を実施。挨拶の励行と遅刻者数を減らすことも含め、継続指導が必要である。		○		引き続き注意指導していきたい。1学年に向けて年度当初に交通安全講話の実施を検討中。
				学校生活アンケートを2回実施。全校集会にて学校長より、他者への思いやりについての講話をしていただいた。きまりを守る意識やマナー・モラルについて職員全体での継続的な声かけが必要である。		○	生徒について職員間での共有を継続していく。あらゆる場面で主体性や人間性の部分を指摘していく。	
	生徒が自主的に目標をもって学び、意欲的に進路実現を目指す学習・進路指導を行う。また、将来の生き方・働き方を考え、選択決定する上で必要な、基本的な能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。	進路指導係として、本校生徒全体の学力向上を目指し、生徒自身が具体的な学習目標をもつことができるような教科指導・進路指導を行うことができたか。	進路指導係として、夏期講習・学習合宿・補習・個別指導・小論文指導等を充実させ、生徒個々の希望や実情に応じた進路指導を行うことができたか。	進路講演会4月（1学年（対面）・2学年（オンライン）・3学年（対面）） ・学年集会、学年進路講演会の実施、学年通信の発行 ・進路指導室だより（1, 2年向け：月刊、3年向け：適時）の発行 ・次年度類型科目選択資料「科目選択の指針」の作成	○			引きつづき、状況によってはオンラインなどを活用し、各取り組みの充実を図る。特に2025年度入試に向け、最新の情報の収集に努め、随時提供していく。
				・3学年1学期・2学期：放課後補習の実施 ・1, 2学年夏期休業：夏期集中講座 ・3学年夏期休業：夏期補習 ・1, 2学年：小論文講座の実施 ・3学年：特別編成授業A・B計画と実施、小論文模試、小論文講演会の実施		○	夏期休業中の補習、また学習合宿に代わる学力補充の実施について、時期や形態を再考する。引き続き、模擬試験欠欠者の自宅受験は行わないことを申し送り事項とする。	
				・1, 2学年：タブレット端末やリブリの活用の推奨 ・スタディーサポートや生活記録などを通じた実態の把握 ・状況を踏まえた個別面談の実施		○	学習とスマートフォンとの共存、また班活動との両立が大きな課題である。また、日々の教科指導における予復習の徹底が課題である。	
				・学年進路講話の実施 ・7/13（木）2025年度新課程入試に向けた職員研修会実施	○		2025年度（新課程）入試の研究と理解を深め、次年度以降の指導計画に組み入れる。探究活動の充実と、副担任による模試監督など職務分担の平分化を含め、他分掌や教科にも発信していく。	
進路指導係として、就労体験等の機会の活用を図りながら、望ましい勤労観、職業観を育成できたか。	・長野東部中学校（7月）、吉田小学校（11月）にて教育実習体験実施 ・9月：キャリア教育講演会実施（外務省職員：楠本汐里さん） ・1学年：キャリアガイダンス実施（オンラインと対面で実施） ・2学年10月：大学模擬授業（オンラインと対面で実施） ・1学年11月：大学等見学（企業見学は一部実施） ・1, 2学年：「高校生看護師体験」（希望者）		○	引き続きオンラインによる実施を視野に入れながら、充実を図る。また、探究学習や活動履歴との接続を検討する。				
生徒会	生徒の主体的行動を促し、一人ひとりが責任感を持って意欲的に自治活動に取り組み、各々が成就感を持てるよう支援する。	日常の委員会活動や諸行事の運営の中で、生徒会役員がそれぞれの場でリーダーシップを発揮し、全校生徒が主体的に参加できるような創意ある活動をおこなうための支援ができたか。	新型コロナウイルス感染症の影響により、行事の計画見直しを余儀なくされたが、オンライン活用など生徒総会、執行部会等、開催の工夫を工夫、実施した。また、暁峰祭を感染対策の工夫を検討してかなり例年どおり実施することができた。クラスマッチを3年ぶりに本来の形で実施できたのは大きな成果である。		○		今後も行事の中止や計画変更等が求められることがあると思われるため、生徒会役員と活発な意見交換を行いながら、取り組んでいきたい。また、外部への発信、地域や他校等外部との関りを持った取り組みを模索していきたい。	
		クラブ活動への加入、活動の活性化を促進し、クラブ活動がより一層充実するよう支援することができたか。	例年のようにクラブ結成の会・体験入班を持ち、活動を実施することができた。1年生の加入率も例年並みの数字を維持できた。特に女子は100%に近い加入率である。		○	今後も活動が制限される場合があると予想されるが、活動が活性化できるように支援をしていきたい。		
教育活動	平和人権教育を計画的に推進し、職員研修を実施する。	全校生徒を対象に、人権・平和に関する講演・朗読会または映画鑑賞を実施し、事前事後学習と関連させてHR等での学習を深めることができたか。	全校一斉平和・人権学習として、「ハンセン病差別について考える」をテーマに2回の事前学習を実施し、10月8日（水）に映画『あん』を視聴した後、LHRの時間をとって感想文を書いた。HDMIエクステンダー受信機を設置し、各教室に同時配信する形式を採用した。		○		本部教室（418）よりDVDを再生し、各教室に配信する新しい形態で映画鑑賞を行ったが、音声・映像とも高品質で視聴できた。毎年午後に実施していた企画であるが、機材の設置等の関係で午前中開催とした。時間に関してはフレキシブルに対応できてよかった。	
		平和人権学習の時間をHR等で計画的に確保できたか。	今年度のテーマである「ハンセン病差別」に関する資料およびパンフレットを作成し、HR等の時間を利用して2回の事前学習を実施した。		○		さらに事前学習の中身の充実を図りたい。	
		平和人権教育に関する教職員の研修を実施し、校内での実践等を交流できたか。	全校生徒対象の学習会と職員研修を昨年に続き共催という形で実施した。職員は会議室にて、同時配信された映画『あん』を視聴した。		○		交流する時間を検討したい。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
施設 整 美 防 災	校内美化に対する意識の向上および清掃活動の徹底と防災意識の涵養に取り組む。	生徒会整美委員会が中心となり、日々の清掃活動の励行、ゴミの取り扱いに対する意識を高める等、生徒と職員が一体となって、日常的に取り組むことができたか。	校内の施設、設備の点検・整備を行い、有効に利用できるようにしたか。	クラスの委員を中心に、清掃を積極的に取り組むことができた。ゴミステーションの当番を各委員に順番に割り振ることにより、ゴミに対する意識を高めることができた。教室のゴミ箱を撤去して3年目である。	○			ゴミに対する意識を更に高めるとともに、毎日の清掃活動を通して校舎の美化に努めたい。
			点検・整備に努めたが、場所によっては十分にできなかった箇所もあったので今後の課題としたい。		○	できる限りの取り組みはしたが、不足があった部分については来年度への引き継ぎとしたい。		
	生徒の教養に資する資料を提供するとともに、生徒・教職員の学習・教育活動を積極的に支援する図書館運営を行う。	広報活動や読書旬間等の行事、生徒会図書委員会の活動の活性化を通じて、読書活動の充実を図ることができたか。	広報活動・読書旬間は例年通り実施している。今年度は、昨年まで中止となっていた文化祭時の古本市を実施したり、委員交流会にもリモートではあるが参加することができた。しかし、全体を通じて生徒の自発的な活動を促すことが非常に困難であり今後の課題である。引き続き戸隠分校図書室とのやりとりや本校業務との時間配分に苦慮している。		○		他校との相互貸借協力が増加し、本校で対応できない資料も提供することができた。生徒委員会の活性化は引き継ぎの課題。	
図書 視 聴 覚	日常の学習や進路学習において、教科や係と連携を深め、資料の提供ができたか。	日常の学習や進路学習において、教科や係と連携を深め、資料の提供ができたか。	引き続き 探究・進路関連図書を優先的に購入し、特に進路や時事問題は幅広く興味を促すよう、関連する新聞記事や雑誌とともに展示している。生徒・教科からの購入希望リクエストにも積極的に対応できた。		○		本校司書の分校図書室業務については、他校のように適切に専門の人員を配置するなど検討していただきたい。	
			引き続き 探究・進路関連図書を優先的に購入し、特に進路や時事問題は幅広く興味を促すよう、関連する新聞記事や雑誌とともに展示している。生徒・教科からの購入希望リクエストにも積極的に対応できた。		○	3学年の講座で郷土の文学全集を活用いただいた。今年度は利用自体が例年より減少したため、小論文対策や進路関連の問い合わせに一件一件時間をかけて対応できた。卒業前駆け込みの進路・小論文相談については、今後も早めの利用を呼び掛けたい。		
	芸術鑑賞の計画・運営等の視聴覚教育を推進し、高視研との連携を図りながら、生徒と教職員の教育活動に役立てる。	係が芸術鑑賞連絡会や高視研との連携を図りながら事業を推進し、生徒の教育活動に反映・活用できたか。	芸術鑑賞事業は2年ぶりに開催することができた。新型コロナウイルス感染症の拡大防止策や様々な懸念がありましたが、先生方をはじめ全校生徒の協力により、無事に開催できた。改めて感謝申し上げる。次年度も本校の単独公演になるが実施を予定している。視聴覚教室（2階）の授業の活用・発展的利用については、設備拡充等を含めて今後の課題としたい。		○		予算状況に応じて改善を進め、机や椅子及び電子黒板や視聴覚機器についても整備を進める。	
保健	自らの健康について関心を持ち、生涯を通じて自発的に健康な生活を送ることができる能力を身につける。	定期健康診断や健康相談活動等を通じ、自らの健康課題を把握し改善することができるよう保健管理・保健指導を行えたか。	定期健康診断や健康相談活動等を通じ、自らの健康課題を把握し改善することができるよう保健管理・保健指導を行ったが、細部にわたる指導が困難だった。		○		学級担任の協力を仰ぎながら、きめ細かい指導を行えるよう努力する。生活習慣・食事・睡眠など、今から意識して行動できる成人になれるよう組織的な対応を促す。	
		学校において予防すべき感染症について、最新の情報収集により感染拡大防止策の徹底がなされたか。	学校において予防すべき感染症(特に新型コロナウイルス感染症)について、各部署と連携・協力しながら、最新の情報収集により感染拡大防止策の徹底に努めた。健康観察の徹底が不十分なところがあった。		○		引き続き家庭や学級での健康観察をお願いし、各自の感染予防の意識を高めていきたい。	
探究 学習	生徒が自ら課題を発見し、解決していく力を養う。	探究学習係として、情報収集に努め、効果的な学習活動を実施できたか。	情報の収集・精選を行い、関係各所との情報の共有につとめた。外部団体の募集企画に参加し、一定の成果を出した生徒もいた。		○		研究応募や参加型の企画を精選・周知することに力を入れ、生徒の探究学習活動が多様化することにつとめたい。	
		探究的学習を通じ、生徒に社会に参画する姿勢についての理解を深めさせる事ができたか。	各学年ごとに、生徒自身の進路と社会とのつながりを意識させながら学習を進めることが出来た。1学年では、身近な話題や外部講師の講義を通して、探究的なスキルを獲得した。2学年では自らの志望先分野が抱える問題を掘り下げることで、学問と社会のつながりについて理解を深めた。		○		生徒各人が自らの立てた問いに対して、客観的なデータやフィールドワークを活用しながら結論を導き出していけるような仕組みの構築を考えていきたい。	
学習 指導	生徒の学習状況や指導上の問題点を把握し、各学年や関係部署と協議しながら学力向上のための研究・実践を行う。	授業アンケート等を通して、生徒の意見・要望を聞き取り、教科指導の向上・充実につなげることができたか。	アンケート未実施の授業もあったが、一学期、二学期ともに例年通り実施できた。		○		全授業でアンケートを実施するよう呼び掛けていく。また、アンケートの結果を反映できる方法も検討したい。	
		生徒の学習実態を把握するとともに、家庭学習など学習習慣の定着を図るべく適切な方策が講じられたか。	1・2学年は、学びの基礎診断(スタディサポート)を4月と9月に実施した。3学年は、各模擬試験等を通じて各生徒の実態把握に努めている。また休日には当番制で学習室を開放し、学習環境を提供することができた。		○		日曜の学習室開放とも連携させて、土曜学習室の利用促進をさらに図りたい。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
教育課程	教育課程	施行している新教育課程について本校の編成内容が適切であるか検証し、より学習効果が高まる教育課程を研究する。	新教育課程下での学習効果と課題の検討を行い、必要に応じて見直しを行うことができたか。	新教育課程において、各教科で生徒に身につけさせたい内容やその評価について議論および検討し、カリキュラム編成を行うことができた。	○			再来年度導入される大学入試共通テストでの「情報Ⅰ」の動向に注視しながら、生徒のより良い進路実現に向けた教育課程編成の検討を継続していく。
			主体的・対話的で深い学びを踏まえて、学校全体及び各教科で授業内容の研究・検討とそれに伴う観点別の学習評価の検証ができたか。	主体的・対話的で深い学びについて、各教科において授業公開や研究授業の場で研修をしている。観点別評価については1年生の科目で教科ごと基準を作成して実施した。		○		観点別評価については、初の試みであるため、細部に改善点が残る。次年度は2年次まで拡大されるため、明確な基準作りと校内での共通認識確立を図りたい。
	1学年	社会の一員としての規範意識を持ち、長野吉田高校の生徒としての誇りとともに、自ら考え、行動し、学ぶ姿勢を持てるよう指導する。基本的な生活習慣の土台の上に立って、学習習慣の確立、進路目標に向けての展望を開けるようにする。	タブレット端末を利用するなかで、情報リテラシーを高めるとともに、教科の学習や、総合的な探究の時間およびHR活動における進路学習において、有効活用できるスキルを身に付けさせる指導ができたか。	学年通信を「Classroom」で配信したり、各教科から連絡などを「Classroom」を用いて行った。また、出席停止時の授業中継参加も「Classroom」の「meet」機能を使った。『探求』では、「スライド」を利用することで、プレゼンの技能を高めることができた。有効活用できたと同時に生徒のスキルも高まった。	○			引き続きICT機器を積極的に利用することで、学習効果をさらに高めていきたい。
			「スコラ手帳」の活用をとおして、目標設定、学習の振り返り、自らのスケジュール管理、持ち物や提出物の管理など、生徒の自己管理能力を高める指導ができたか。	定期テストのたびに、「Googleform」を用いて家庭学習時間の調査を行ったり、『スコラ手帳』の点検を行うなどして、メリハリをつけた生活ができるように促した。また、同時にスケジュールを含めた自己管理能力を向上に意識が向かうように声掛けを行った。		○		日常生活のなかでスマホへの依存度が高く、スマホに使われている傾向が強い。スマホとのしっかりとした付き合い方、正しい使い方を身に付けさせたい。
			本校で生活するひとりの生徒として、あいさつや身だしなみ、公共のマナーや身の回りの整理整頓に気を配り、他者の立場や気持ちに立って物事を考え行動できるように導くことができたか。	あいさつや身だしなみ、清掃活動などについてはよくやっており、快適な学習空間が作られている。1学期の欠席は全体的に少なかったが、2学期からは増え始め、特定の生徒で長期に休む者も出始めた。また、遅刻についても2学期後半から半ば常習化する生徒が出た。		○		公共のマナーや身の回りの整理整頓への指導は継続して続けたい。自己管理能力を高めるための工夫や声掛けを続けたい。
			『総合的な探究の時間』を通じ、目標に向かって自ら考え、時に協働し、蓄えたものをアウトプットする力を身に付けさせ、自身の高校生活における諸活動に活かせるように指導できたか。	『探求学習』では、4から5人のグループごとに協働で“調べ”、“まとめ”、“発表（ディベートも含め）する”というサイクルを、約2か月に1回ほどの期間で5つのテーマについて行ってきた。そうした方法に年度当初は戸惑いがある生徒が多かったが、次第に慣れてきて内容的にも良いものになってきた。	○			来年度は「1人1プロジェクト」を行う計画である。今年度の「テーマ学習」を基礎に、自ら“調べ”、“まとめ”、“発表”するスキルをつけ、大学入試に利するような活動にさせた。
			学習ノート進路資料を活用しながら、学習時間の振り返り、次の週の目標等また、持ち物・提出物をはじめ、時間管理や生活状況の把握を自ら考えていけるよう指導できたか。	進路たより、学年通信、タブレットなどを利用し、諸活動のスケジュールについて周知することを心がけた。学習、生活、課外活動等の振り返りを学期末に行い、時節に活かす指導を行った。提出物の遅れ、遅刻等をする者が散見されるので、引き続き指導していきたい。		○		3年次は学習、課外活動ともにたいへん忙しくなるので、自覚を持たせ、スケジュール管理できるよう、指導していきたい。
			「気持ちのよいコミュニケーション」「気持ちのよい学習環境づくり」に向けて、挨拶の徹底、スマホに依存しない生活、学習環境を整えるなど、基本的な事項を守りながら誠実に成長ができるよう指導できたか。	行事、特に修学旅行でクラス内の仲間作りが進んだことはたいへん良かった。清掃もきちんと行われ、学習環境を自ら整えられている。挨拶の声が弱いこと、家庭等でのスマホの長時間使用の指摘があるので、引き続き指導していきたい。		○		3年生として、最上級生となる時を機ととらえ、指導を充実させていきたい。
			総合的な探究の時間を通じて、将来の職業選択を視野に入れながら、その実現に向けて必要な学習、高校生活での諸活動に取り組むよう指導できたか。	進路探究ワーク（探究教材）も活用しつつ、志望系統分野別に分かれての個人ワークやグループワークを重ね、将来の職業選択の参考となる機会とし、12月に分野ごとの個人発表、2月には代表者発表を行った。希望者による信州大学・長野県立大学との高大連携による哲学演習参加や、長野市青年会議所主催の社会人基礎力コンテストの入賞もあった。		○		総合的な探究の時間は2年次で終了となるが、そこで獲得した能力を3年時に活かしていきたい。
			タブレット端末を利用して、教科教育、総合的な探究の時間、HR活動で有効に活用できるよう指導できたか。	タブレット端末を利用して、学習活動の連絡、健康チェック、課題の配布・提出、アンケート等の諸調査を行っている。数学ではLibryを利用し、探究活動では、グループワークや発表も行った。コロナ感染拡大期にはオンライン授業で利用した。有効に活用できている。		○		探究活動が2年次までであり、発表等の活用は減少する。3年次では更なる進路情報収集、主体的なスケジュール管理が求められるので、支援をしていきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
3 学年		責任ある社会の一員としてお互いを思いやり尊重できる事。そして生徒一人一人が自分の目標を持ち進路実現に向けたゆめめ努力ができるように指導する。	挨拶が出来ること。友人を気遣う心を持ち気持ちの良い環境が作れること。計画を立てること。そして授業を大切に予習や復習に取り組む姿勢を励行できたか。	挨拶、清掃活動については自発的によくやっており、快適な学習空間は作られている。一方、欠席・遅刻については、芳しくない生徒がいた。		○		卒業に向け、環境美化に取り組むよう指導する。飛ぶ鳥跡を濁さず。
			クラスを大切に学年という集団の一員である自覚を高め、長野吉田高校の生徒としての自覚を持ちお互いを励まし進路実現に向けて切磋琢磨することができたか。	お互いに励まし合い思いやりながら、学習に取り組んでいる姿が見られる。		○		環境を整え、細かなことに注意を払う指導を続ける。
			失敗を恐れず挑戦する気持ちを大切にすること。そしてこの1年が人生の中でも忘れることが出来ない良い年になるように導くことができたか。	弱音を吐かずやれるだけのことをしっかりやっという様子がかがえた。自分の目標をはっきり定め、積極的に質問をしたり、面接、小論文の練習などを自発的に取り組む生徒が多かった。	○		各自の目標達成が実現できるように生徒を支える指導を続ける。	
学校運営	教務	生徒が意欲的に学習、クラブ・生徒会活動に取り組むことができるようスムーズな学校運営を行う。	年間行事予定に定められた諸行事を、学年・教科・係・委員会が連携を密にして取り組めるように、立案・計画・運営ができたか。	感染対策を講じながら、概ね年間行事予定表に従って、各部署と連携して立案・計画・運営を行うことができた。また、職員間の協力により急な学級閉鎖が生じた時にはオンライン授業へとスムーズな切り替えが実施でき、感染症対策だけでなく、荒天時などにも状況に応じて対面授業の中継を実施できた。		○		来年度は各計画を限りなく「コロナ前」の体制に戻していく必要がある。各部署と連携しつつ、元に戻す点・変化を維持する点を精査しつつ学校運営を行う。状況に応じて速やかにオンライン授業や授業中継に切り替えられる体制は維持する。
		情報機器と校内ネットワークの管理・運営を進めるとともに、生徒および教職員のICT活用を積極的に支援する。	情報機器および校内ネットワークの円滑な維持管理ができたか。ICT教育関連の情報を学校全体で共有し、ICT活用を進めることができたか。また統合型校務支援システム(C4th)の円滑な運用ができたか。	分掌再編でICT担当・情報機器担当を一元化したことで、ICT活用の推進体制を強化することができた。また校務支援システムは定着し十分機能している。入力漏れがまだ目立つ。		○		職員会議のペーパーレス化や職員の一人一台タブレット運用など、校内のICT化をより進める。公務支援システムのさらなる定着を図り、幅広く運用できる人を増やしていく。入力漏れ等を防ぐ手立てについて、工夫を考えたい。
		広報活動に力を入れ、体験入学の充実を図る。	学校案内パンフレットならびに公式ホームページの工夫・充実をはかり、本校を志願する中学生が本校についてよりよく理解できるような情報提供ができたか。	当初の計画通り学校案内パンフレットは作成できた。体験入学は各所の協力により無事実施でき、多くの中学生とその保護者に参加してもらったことができた。クラブ見学の時間枠や実施時期については見直し含め検討する。		○		体験入学については、実施時期を7月に変更する。またクラブ活動見学の時間枠はなるべく柔軟に設定する。体験入学に間に合うようパンフレット作製は早めに行う。
		保護者と教職員の連携を図り、学校の教育活動を支援する。	P T A諸活動が、保護者が学校への意見や要望を出しやすい機会となりえたか。 生徒の学習活動やクラブ活動などに関する教育条件整備を支援することができたか。	5月のP T A総会はオンライン実施となったがその後の学級P T A、9月の各学年P T A教育懇談会は対面の実施となり保護者の意見交換の場が設けられた。 P T A会計やクラブ振興会会計などの予算執行により、班活動の旅費の支援ができた。10月のP T A常任幹事会にて全国大会出場時の垂れ幕の懸垂幕昇降装置の取り付けが決まった。環境整備はP T Aの保護者、生徒、教職員、総勢150名余りが参加して花壇の設置できた。		○		次年度もコロナ感染対策に対応する各種行事の開催となると考えられるが、その時期に最善の方法で各種行事が開催されるようにしていきたい。 各方面から意見や要望を聞き、予算のなかで、可能な限り、教育条件整備を進めていきたい。
「開かれた学校づくり」推進	「開かれた学校づくり」を研究・推進し、学校をより活性化させる。	授業公開・教育実習等の機会を捉え、魅力のある授業を行うための校内研究を充実させ、教員の資質向上を図ることができたか。	感染症対策を講じながら、当初予定したすべての授業公開を無事実施できた。また、参加申込み方法にクラウドサービスを活用し、中学校高校相互の負担軽減策も講じた。		○		感染対策の緩和に合わせ幅広く授業公開が実施できるようにする。参加申し込み方法にはクラウドサービスを継続して活用する。	
		各種アンケート調査とその分析、学校自己評価表作成と中間評価及び総括、学校評議員会等の意見などを反映させ、よりよい学校づくりに資することができたか。	各種アンケートにはクラウドサービスを積極的に活用し、効率化を進めている。また「新しい学びの指標」をはじめ、各アンケート結果は職員間でフィードバックに努めた。一方回収率は前年比で低下した。		○		アンケート集約ではクラウドサービスの活用を継続する。アンケート結果や学校評議員会での意見は、職員会議等を利用しつつ職員間での共有を図り、学校改善につなげたい。回収率をあげられるようこまめな呼びかけを行う。	